

拠点名称：地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点

代表機関	東海国立大学機構 名古屋大学	プロジェクトリーダー	森川 高行 東海国立大学機構名古屋大学未来社会創造機構特任教授
幹事自治体	名古屋市、春日井市	幹事機関	東海国立大学機構岐阜大学 一般社団法人中部経済連合会
参画機関	愛知県立芸術大学、東海大学、鹿児島大学、産業技術総合研究所 東海旅客鉄道株式会社、名古屋鉄道株式会社、ヤマハ発動機株式会社、KDDI株式会社、 株式会社日建設計総合研究所、一般社団法人サステナブル経営推進機構、岐阜市、愛知県、知名町		

プロジェクトの概要

東海地方を含むわが国のほとんどの地域は、マイカー依存型の交通システムになっており、自動車の過大な利用による社会的コストが増加すると共に、マイカーを利用しない人々は日常的移動に困難を感じ、活動の機会が奪われている。このため、地域に住み続けたいが、住み続けられない未来がすぐそこまで迫っており、「マイカー」から「マイモビリティ」への転換が急務となっている。

本拠点では、『みんなの「行きたい」「会いたい」「参加したい」をかなえる超移動社会』をビジョンに掲げ、このような地域において、マイカーを使わない（運転できない、運転したくない）人にも社会に公平なアクセスができるような超移動社会を目指す。具体的には、先進モビリティ技術とモビリティアセットの共有化という技術及び制度のイノベーションと総合知活用によって、マイカーを使わなくても快適に移動できる地域モビリティシステムを実装し、活動機会やビジネスチャンスの増加を通して持続的な地域創生を推進する。さらに、カーボンニュートラル視点で、脱炭素型の地域モビリティシステムの構築を目指す。また、名古屋大学Future Society Studioでの総合知的活動を活かし、大学、自治体、市民、企業とのアンダーワンルーフ体制による移動課題解決ができる地域共創の場を構築する。

地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点

みんなの「行きたい」「会いたい」「参加したい」をかなえる超移動社会

マイカーを使わない人にも社会への公平なアクセス機会を！

ターゲット1

地域モビリティ充実による
社会参加機会と
ビジネスチャンスの増加



ターゲット2

移動ストレスが減り、移動が楽しくなり、社会的コストも最小化する地域モビリティシステムの実装

ターゲット3

「東海地域モビリティモデル」の確立と他地域への発信・展開

研究開発課題1 フラッグシッププロジェクトを通して漸進的に地域を創生

- 名古屋市と春日井市を結ぶ名古屋東北回廊プロジェクト
- 歴史的商業地区再生プロジェクト
- 遊覧都市再生プロジェクト

(応答型 (PDCA) 研究開発)

研究開発課題2

公共財PF

ソフト
リアル

運行の仕様、情報の規格、フォーマット

研究開発課題3

地域モビリティシステム



研究開発課題4

多感覚インフォテインメントシステム



研究開発課題5

総合知の活用



心理的well-being

拠点名称：地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点
代表機関：国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学
プロジェクトリーダー：森川高行 (特任教授)

研究開発課題1 「漸進的地域創生と応答型研究開発を進めるフラッグシッププロジェクト」の目標		年度
目標⑥	中心市街地と観光拠点を結ぶ自動運転バスの実証	2026
PoC達成目標 1	名古屋東北回廊・歴史的商業地域再生プロジェクトにおけるサービス実証とその評価	2030
最終目標	東海地域モビリティモデルの構築	2031
研究開発課題2 「地域モビリティを持続可能にするビジネスモデルチェンジ」の目標		
目標①	高蔵寺NT地区の二次・三次交通の再生計画の実証	2024
目標②	居住者・来街者を巻き込んだマイモビリティ/マイタウンビジネスモデルの検討	2025
目標③	地域モビリティシステムのアセットを共有するPFの理論構築	2025
PoC達成目標 1	名古屋東北回廊・歴史的商業地域再生プロジェクトにおけるサービス実証とその評価	2030
目標⑬	地域モビリティシステムのアセット (公共財) を構成する要素ごとの技術仕様の開発	2031
研究開発課題3 「快適で低コストな地域モビリティシステムの開発」の目標		
目標⑦	ドアツードア中量輸送システムPRTのシミュレーション構築	2026
目標⑧	デュアルモードバスの高架区間における自動運転技術の開発	2026
目標⑨	コスト1/10を目指した車両位置計測システムの開発	2026
PoC達成目標 2	1人乗り自動走行モビリティ (L4自動運転) の安全性検証	2028
目標⑭	地域モビリティシステムの開発	2031
研究開発課題4 「移動価値を高める多感覚IoTプラットフォームの開発」の目標		
目標⑩	ライフコンテンツアプリケーションの構築	2027
目標⑪	Beyond5G/6G環境を想定したマルチモーダルインタフェースの構築	2028
PoC達成目標 3	行動誘発サービスシミュレーションを踏まえたライフコンテンツと多次元データの提供	2030
目標⑮	モビリティプラットフォームにおけるライフコンテンツの構築	2031
研究開発課題5 「総合知の活用による社会的価値の評価と社会実装の推進」の目標		
目標④	日常的な移動におけるストレスの解明とwell-beingとの関連の解明に向けた調査の実施	2025
目標⑤	先進モビリティの社会実装に向けた法的課題の抽出	2025
目標⑫	国際法規も踏まえた社会実装に向けた法整備の検討	2028
最終目標	総合知活用によるマイモビリティの社会評価と法制度の提案	2031

拠点名称：地域を次世代につなぐマイモビリティ共創拠点
 代表機関：国立大学法人東海国立大学機構名古屋大学
 プロジェクトリーダー：森川高行 (特任教授)

研究開発課題	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	最終年度
1. 漸進的地域創生と応答型研究開発を進めるフラッグシッププロジェクト	東海地域モビリティモデルの構築									
	実証と評価①		実証と評価②		実証と評価③		実証と評価④		POC達成目標1	
	名古屋東北回廊のサービス実証と評価									
	歴史的商業地域再生プロジェクトのサービス実証とその評価									
	実証と評価①		実証と評価②		実証と評価③		実証と評価④		最終目標	
2. 地域モビリティを持続可能にするビジネスモデルチェンジ	高蔵寺NT地区の二次・三次交通の再生計画の実証			目標①	名古屋東北回廊の二次・三次交通の実証					
	居住者・来街者を巻き込んだマイモビリティ/マイタウンビジネスモデルの検討				目標②	公的補助に頼らないモビリティサービスのビジネスモデルの確立				
	地域モビリティシステムのアセットを共有するPFの理論構築				目標③	地域モビリティシステムのアセット(公共財)を構成する要素ごとの技術仕様の開発				
	地域モビリティシステムのアセット(公共財)を構成する要素ごとの技術仕様の開発									
	目標⑬									
3. 快適で低コストな地域モビリティシステムの開発	ドアツードア中量輸送システムPRTのシミュレーション構築				目標⑦	ドアツードア中量輸送システムPRTのシステム開発				
	デュアルモードバスの高架区間における自動運転技術の開発				目標⑧	デュアルモードバスの平面区間及び路面公共交通システム等における自動運転技術の実証				
	地上走行先進モビリティ(バス)の実証実験				目標⑨	1人乗り自動走行モビリティ(L4自動運転)の安全性検証				
	コスト1/10を目指した車両位置計測システムの開発				目標⑩	1人乗り自動走行モビリティ(L4自動運転)のモビリティサービスの実証				
	目標⑭									
4. 移動価値を高める多感覚インタラクションシステムの開発	ライフコンテンツアプリケーションの構築				目標⑩	行動誘発サービスシミュレーションを踏まえたライフコンテンツと多次元データの提供				
	Beyond5G/6G環境を想定したマルチモーダルインタフェースの構築				目標⑪	モビリティプラットフォームにおけるライフコンテンツの構築				
	目標⑮									
	POC達成目標3									
5. 総合知の活用による社会的価値の評価と社会実装の推進	日常的な移動におけるストレスの解明とwell-beingとの関連の解明に向けた調査				目標④	日常的な移動ストレスの定量評価指標の確立及びポスト調査による結果を踏まえたマイモビリティによる総合知の確立				
	先進モビリティの社会実装に向けた法的課題の抽出				目標⑤	国際法規も踏まえた社会実装に向けた法整備の検討				
					目標⑫	先進モビリティの社会実装に向けた法整備の提案				
最終目標										

